

第25回鳥取県教育審議会の概要について

令和4年3月19日
教育総務課

- 1 日 時 令和4年2月18日（金）午前10時～正午
- 2 開催方法 オンライン形式（本部会場：白兎会館飛翔の間）
- 3 出席者 教育審議会委員（19名）
- 4 概 要

（1）意見交換

以下のア～ウについて、事務局から概要を説明した後に全ての出席委員から意見を伺った。

ア 小学校における30人学級の推進について

令和3年度から国が実施する少人数学級の動向等を踏まえ、県と市町村の協働により、国よりさらに一步先行する形で令和4年度以降、新たな少人数学級の制度を構築することについて意見交換を行った。

<主な意見等>（○：審議会委員からの意見、●事務局からの説明）

- 1学年の学級が31人になった場合、15人と16人で学級が分かれるが、教科によっては合同の方がいい場合もある。
- 30人学級が目的ではなく、なぜ30人学級がよいのか、シミュレーションし、示せたら運用が変わってくると思う。25人の方がよければ人件費をかけてでも体制をつくるということもあるのではないか。
- 30人学級について、実際に学力向上等に顕著に効果が現れるのは20人以下になってからということがあるが、それは本当にそうなのかということは調べて実証していくことが必要であり、また、40人学級の時の教育方法を15人でやってもだめだと思うので、少人数の指導の方法も検討してほしい。
- 一人一人の教員が児童生徒一人一人の資質能力を今まで以上に丁寧に見取っていくことが求められており、30人学級や一人一台のタブレットは個別最適な学びを後押ししていると思う。
- 不登校の子どもの約6割が相談機関を活用していないというデータで出ているので、少人数学級となることで、その6割の子どもたちに対して何かアプローチができればいいと思う。
- 31人になると15人と16人となるが、中学になると一気に大きくなるので、その辺の配慮が必要だと思う。
- 30人学級を始めるにあたって、まず教員養成、それから子どもの教育という二段階になることから、鳥取県内での教員養成が大事であり、研究してほしい。
- 若手の育成で大事なことは仲間研修・仲間づくりだと思う。採用5年までの先生が近くの学校で仲間研修の場をつくり、そこに中堅のベテランが参加するということも必要ではないか。
- 年齢の近い若手教員がチームになり、月一回様々な企画で初任者を育てる「初任者メンター研修」があるが、これが非常に良い取組で、学校経営していく上で必要だと感じている。
- 先生方には、続けてもらうことが大事なので、最初は真似ることからはじめ、何が問題で、何に躓いているかをチームで短時間でも話し合い、その上で、自分で考えて解決していく力を身に付けていくことがいろんなことに繋がると考える。
- 教員確保について、学生は年休の取得や、給与等の待遇面をよく比較しているので、少しでも向上すれば、鳥取県を選んで教師になる人が更に増えると思う。
- 教員確保にあたって大学推薦を鳥取県では取り入れているか。大学推薦で受けると受かったら断れないことから、教員確保に繋がると考える。
- 退職者の再任用においては、新しい学習指導要領の知識を踏まえて、指導・授業を行うことができる教員の任用が重要である。
- 採用制度について大学推薦という形式は本県ではまだ導入してはならず、今後研究していきたいと考えている。

- 初任給は全国的には横並びである。また、本県は働き方改革に先進的に取り組んでおり、特に小中学校においては、教職員の勤怠管理や児童生徒の在籍・成績管理を、全市町村での統一システムを導入しており、転勤しても同じ環境で業務を行うことができる。
- 30人学級の運用については、31人の場合、16人と15人に割る、単に学級担任が増えるということではなく、例えば音楽、社会や探究的な学びなど、教科の状況によって合わせて31人にすることによって教育効果が高まる、あるいは教科によっては担任を交換するというように、教育効果が高まる部分というのは同時に進めていく必要があると考えており、その準備をしているところ。児童に対して、担任だけでなく学年や学校全体が複数の視点でチームとして関わっていくということで、より良い教育環境を構築していきたいと考えている。

イ 学力向上施策の推進について

令和2年3月に策定した「鳥取県学力向上推進プラン」に基づき、これまでの取組に加え、新たに「未来を拓くとっとり学力向上プロジェクト」を立ち上げ、学力向上施策を推進していくことについて意見交換を行った。

<主な委員意見等> (○：審議会委員からの意見、●事務局からの説明)

- 幼児教育という視点も、学力向上の中に入れることで、子どもたちの育ちの保障になるのではないか。
- 学力を上げる一番の決め手は言語活動の充実である。ICTの活用を含め、カリキュラムマネジメントで、目標と方法のベクトルを揃え、授業づくりの基本的な学習の規律や、言語活動をいかにきちんと整えるかが大事だと考える。
- 学校の図書館の活用や、国語力を上げていくこと、まずは読解力、言語能力を上げていくということが必要だと思う。
- 国語や数学だけでなく、他教科の先生方の意識変革や、学校の研修体制など、先生方の教科等横断を実現していかないと現状は変わらないという印象を持った。
- みんなに丁寧で、一斉にというベテランの50代の先生方の意識改革をしていく必要があり、対話型の学びを進めるにあたって、学力の上位層を中心に対話が進み、その中で中位、低位層を引っ張り上げてもらうようなそういうイメージを持った授業が必要と感じる。
- 基礎的な部分がまず定着していないと、次の展開へ繋がっていかないとことがあるので、授業改革に加えて、基礎的な力を付けるための時間の設定や、家庭学習への仕掛け、課題設定も大事な課題であり、両面で取り組むことが大事だと思う。
- 学力には見える学力と見えない学力があり、見えない学力をしっかりと培っていくことが見える学力、点数化に繋がっていくのではないかと。そのためには音読・暗誦書写ということにしっかりと取り組み、言語能力の向上、コミュニケーション能力の向上を図っていく。家庭教育の充実も合わせて取り組み、低学年のうちにしっかりと基本的な生活習慣を身につけ、「早寝早起き朝ご飯」というところまで遡って、基盤をしっかりと作っていくということが学力のアップに繋がっていくのではないかとと思う。
- 目標を明確に持った生徒は頑張るが、生徒は将来の夢や目標をなかなか持てないでいる。子どもたちが目標を持てる社会を作っていくことが私たち大人の責任だと感じている。
- 知識の前に興味本位が人間の非常に重要なものであって将来に繋がって、幸せになる一番重要なところであり、そこを考えていかないといけない。
- 学ぶことの楽しさとか、学習意欲をどう高めるのかというところがすごく大切だと思う。教員の資質向上では、先生自身が楽しいと思える環境、働く環境の満足度というようなものも何か施策化されるといいと思う。
- 学生たちに数学に対する興味を確認すると、そもそもどこで使うか分からないが、問題の解き方だけ勉強しましたと回答する学生が多いことから、現実世界との絡みを学ぶことだけでも、興味が変わってくると考える。
- 学力のマイナス傾向は、子育て環境における深刻な状態が進行していることが考えられ、学

力格差がどう起きるか、家庭との関係でどういうことが起きているかということ进行调查する必要があり、福祉的な観点というものが重要だと思ふ。

- 塾に行かせられるのか行かせられないのか、行きたくても行けない。その家庭環境の問題をもう少し議論すべきだと思ふ。
- 過度の競争を求める学校環境が、いじめ・精神障がい、不登校・中途退学及び自死を助長している可能性があるという国連の子どもの権利委員会からの心配する声が挙がっている。教育行政や学校が競争的な取組を強くすると、子どもも含め、学校自身が苦しむことを知っておくことも必要だと思ふ。
- 成績の追求だけではなく、同時に心の教育をしっかり行い、人間性も養えるような学校であってほしい。
- とっとり学力・学習状況調査では、学力の伸びと合わせて、非認知能力など学力を支える力を合わせて調査し、児童理解を進め、支えていくことを、今後しっかりとやっていきたい。

ウ 県立夜間中学設置に向けた検討状況について

これまでのアンケート調査や設置場所の検討等により、令和6年4月に県立夜間中学が設置される方針となり、今後の設置に向けた具体的な取組等について報告し、意見交換を行った。

<主な委員意見等> (○：審議会委員からの意見、●事務局からの説明)

- 夜間中学という学びの場があるということ子どもたちに示してほしい。
- 様々な状況の人が入学することが想定されるので、ニーズ調査や生徒にあった個別のカリキュラムを作るというところを大事にしてほしい。
- 16歳以上となっているが、現在の中学生で行きにくい人たちが、わざわざ卒業してから進路先として選ばなくても、(将来的に)中学生の時に使える場所であつたらいいのではないかと考える。
- 学びの場であることを重視し、夜間中学で学びたいという方々のニーズをしっかりと捉えられることが必要である。学校の校章は必要かもしれないが、校歌は必要ないと思ふ。
- ICTの技術知識に関する経済的な部分と習熟度的な部分が今後課題になってくると感じる。
- 夜間中学に通われる方々は、年齢層等いろいろな方が想定されるので、通うのが難しい方へのバスの運行や、タクシーの利用等、いろいろな通学の手段も考え、学びたい人が学べる環境を作っていくということも必要ではないか。
- 中・西部の希望者への対応もお願いしたい。
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、また、日本語指導も含めて専門スタッフの配置については、とても必要な学校になってくると思ふので、今後その辺りもしっかりと考えていきたい。

(2) 報告事項

- ア 国際バカロレア教育の導入について
- イ 令和3年度第1回生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について
- ウ とっとり学校図書館活用教育推進ビジョンの改定について

(3) 資料配布

- ア これからの時代における本県の特別支援教育の在り方の答申について